新連載

外部環境の変化を俯瞰する

本田 茂

農業経営診断士 6次産業化プランナー



1. はじめに

前回までは、園芸部を担当してにませまといがちな新人・若手向けまでは、園芸部を担当してにまる新人・方の営業やノウスを目的に連載した。今回からは「もっとを書した。今回からなる方法」を連風やとはない。本書のJA勤務時代の実施していたがした。本部である人・若手のようない。ます。もちろん、部下をもまっただけたら幸いです。

私自身は、JA 勤務の17年間、 全てを園芸部の現場の第1線で過 ごしました。在職中に新しい仕事に挑戦したこと、退職前から現在はさまざまな経営者と触れ合う日々ですが、自身の体験から仕事が楽しくなるには、①出会う相手が変わったとき、②新しい発想が生まれたとき、③新しい仕事に挑戦したとき、であるように思います。当然、こうした変化には苦しみや痛みも生じますが、それらを乗り越えたときの充実感ややりがいは、皆さんも感じたことがあったのではないでしょうか?

これからの農業、みなさんJA グループを取り巻く環境は大きく 変わってきます。この変わる世界 に能動的か受動的に接するかで、 皆さんの仕事も人生も変わってき ますよね。せっかくですから、今 の仕事をもっ

と楽しみ、今 まで出会わな かった人と出 会い、新しい 仕事をするき

っかけになっ

農業をめぐる外部環境の動き

区分	人口・人の動き	マーケット	対象者	これからの動き
川下	国内は減少 海外は増加	縮小	消費者·小売·飲食業·駅中·宅配·CVS·	統廃合・連携・海外進出
川中	川上の減少	縮小	JA·卸売市場·仲卸·商社	統廃合・倒産・商社や企業参入
川上	高齢化で現在の 担い手は減少 若手、企業が増 加	変化		農業参入・農業業界への参入・ 連携・ソフト支援(経営・考え 方・連携など)

てもらえればと思います。

連載第1回は、まずは外部環境の変化を把握してもらおうと思います。全体を俯瞰して JA グループのまわりをみてみましょう。

2. 変化する! 農業界の外 部環境

農業界の外部の変化は、新聞や ネット情報を見ていたら、多すぎ て把握しきれないのではないでしょうか? 大きく川上、川中、川 下で分けて、上の表のように整理 してみました。それぞれの段階で 新しい動きが起きていることがわ かります。

川下から見ると、これから国内は人口減少でマーケットが縮小していきます。イオンやコンビニ業界、食料品メーカーが海外の会社を買い動いているのも、国内よりも海外の人口増加を見ているからです。人口、マーケットが縮小す

る国内は、生き残りをかけた淘汰 により、統廃合や異業種との連携 がキーワードとなり、その過程を 機敏にとらえた新しいビジネスが 生まれていくと思います。

縮小する川下をターゲットとしている川中業界も、川下の統廃合に連動してますます厳しくなっていきます。昨年末に京都の老舗青果卸が、年明けには尼崎の市場が倒産しました。これから卸売市場・仲卸の倒産、廃業、合併がますます起きてきます。この川中業界では皆さんJAも当事者なのです。

川下、川中は厳しいマーケットとなりますが、川上はどうなるのでしょうか? 大きくは農家の高齢化で農業のプレイヤーが交代する時期に入って、不足する農業人口を補うには、①既存の農家の規模拡大、②新規就農者の増加、③企業参入がおきてくるのです。こうした農業の構造変化が最近の農

業ブームの正体です。

マーケットの拡大というよりは 変化と表現しました。この変化す るマーケットには、元々いた皆さ んの領域に「日本の農業を守ろう」 と旗を上げて数々のプレイヤーが 参入してきているのです。

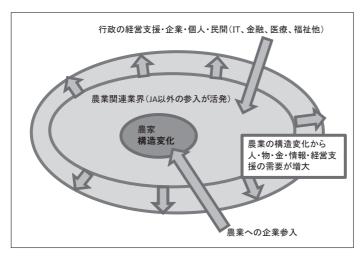
3. 農業の周辺業界の今後

農業参入という言葉が浸透していますが、農業参入と農業周辺業界への参入と言葉を分けて考える方がいい気がします。なぜなら、実際には農業参入よりも農家に資材やノウハウを提供する個人、団体や企業の方が多いからです。

農業の構造変化により、農家や 農業法人の経営資源である「人」 「物」「金」「情報」の組み合わせが変わってきます。農産物を育て販売するということは変わらなくても、作る人が変わることや、既存の農家が規模拡大することやで経営のプロセスが変わってくるわけです。こうした変化をビジネスチャンスとみて参入する企業や行政のサービスが今後増えています(行政も予算確保という観点でいうと企業と同じとも考えられる)。つまり農業周辺業界のマーケットは拡大しているのです。

4. 農業へ参入する目的と実態

最近、筆者のところにも、企業 から農業へ参入したいと相談がき



50 経営実務 '14 2 月号

営支援など様々です。しばらくす ると、単体で農業参入する計画か ら農家へ物を売る業態へ変化して いたり、連携する事業計画に変わ っています。実際の農業参入は、 試行錯誤をしながら、農業、農業 周辺業界をいったりきたりしてい るのが実態ではないでしょうか? こうして見ると、企業の農業参 入、周辺農業参入は、JA グルー プの領域を侵していると考えがち ですが、見方を変えると JA グル ープが新しい事業を模索している と同じように、既存事業を抱えな がら参入する企業も、まだ同じよ うな状態であるともいえます。新 聞や報道では先進的に見える企業 参入のイメージと実際は違うこと を皆さんは知って欲しいと思います。

5. おわりに

農業を取り巻く変化は、みなさ

んJAグループを取り巻く外部環境変化でもあるといえます。これらは、良い悪いではなく、元々をたどれば、農業者の構造変化とそれに対応しようとしている農業関連業界の動きという外部環境に変化にすぎません。

自分は、たまたまこのJAグループから離れて、農業の周辺産業にいるちっぽけな一人ですが、この世界に入ったことで様々な立場の方と出会う機会が増えました。こうした新しい場に、JAグループはもっと交流していけばいいと常々感じています。企業参入する彼らには、敵だけでなくパートナーとなるチャンスがたくさん潜んでいるのです。

次回は、こうした新しい出会いの場の作り方、対応の仕方に触れていきます。お楽しみに!

執筆者紹介



本田 茂…農業経営診断士。宮城県在住。農家や農業法人に対する経営支援をおこなうため平成24年10月独立。17年間 JA 全農で青果物流通の現場にいた。主な担当品目は、菌茸類、豆類、土物全般、筍、梅、きゅうりなど。平成22年経済産業省登録中小企業診断士となる。他コミュニケーション教育協会理事。農業業界、青果物流通業界において人材育成のために講演や研修講師などの活動もおこなう。

●園芸担当者向け研修講師承ります。 お問い合わせは JA 経営実務担当粟野まで awano@zenkyou.com;